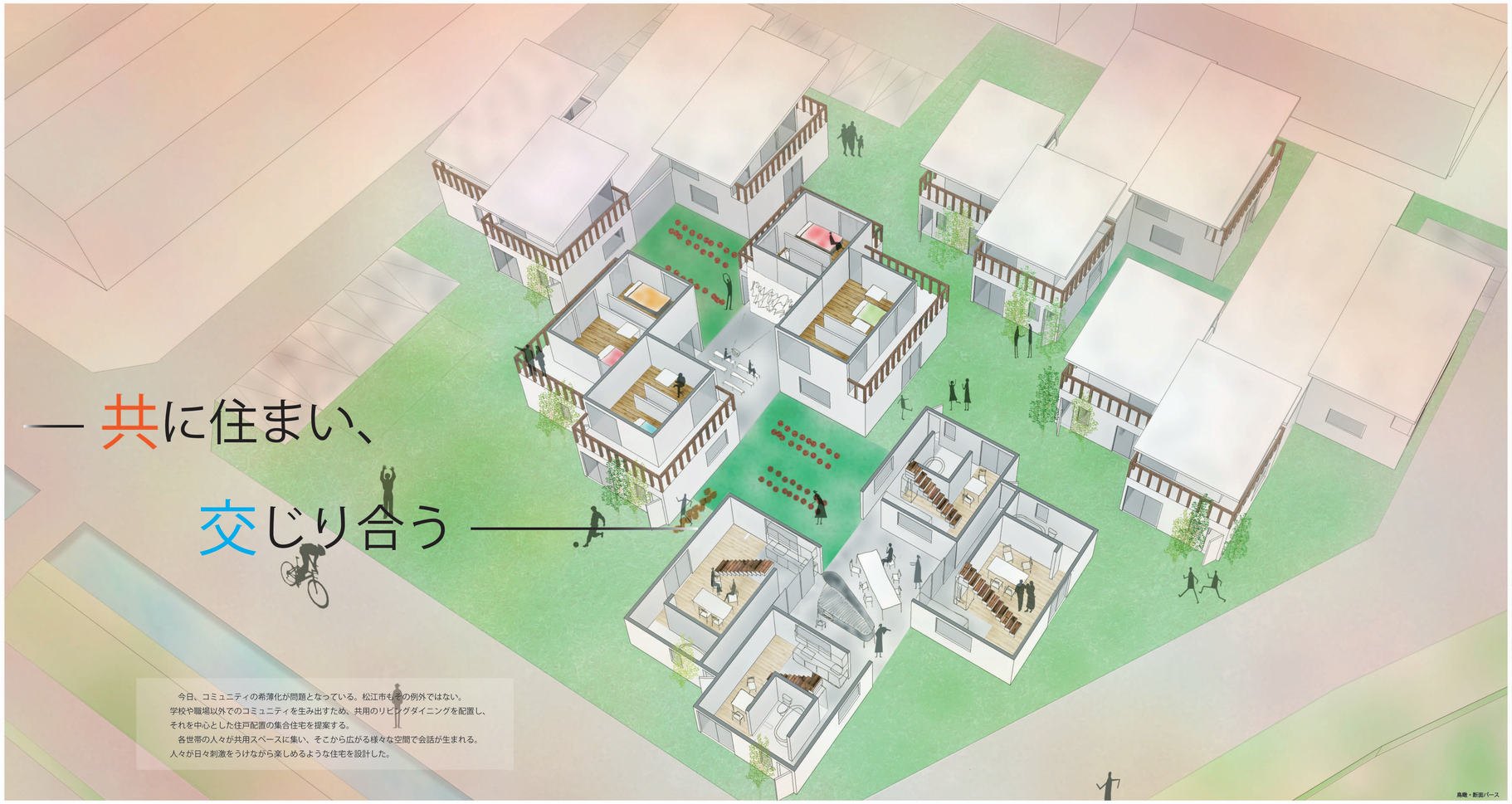
共に住まい、交じり合う



今日、コミュニティの希薄化が問題となっている。松江市も一つの例外ではない。
学校や職場以外でのコミュニティを生み出すため、共用のリビングダイニングを配置し、
それを中心とした住戸配置の集合住宅を提案する。
各世帯の人々が共用スペースに集い、そこから広がる様々な空間で会話が生まれる。
人々が日々刺激をうけながら楽しめるような住宅を設計した。

鳥瞰・断面パース

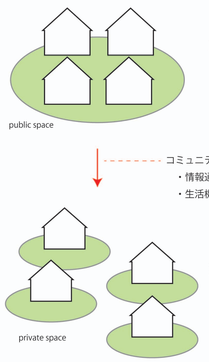
2 階連続平面図

1 階平面図諸配置図

共用 L・D

外観パース

1. 社会背景



古代
人々は敵から身を守り、農作物を効率よく育てるため、集落を形成して住んでいた。

コミュニティの喪失
・情報通信技術の発達による間接的な人間関係の形成
・生活機能の利便化による集住からの乖離

現代
住宅はプライバシーを守るためだけのハコと化し、経済的利点以外で集住する人々は極めて少なくなった。現存する集合住宅において、コミュニティを形成している例は稀有であり、大多数が“ただ集まっているだけの住戸”となっている。

2. 敷地

対象は松江市立母衣小学校と、大橋川の北側に位置する。
近隣住区論にもとづき昭和中期に形成されたまちであり、親水空間が広がっている。
店舗や公共施設、公園など、まちとしての機能は十分に備わっているが、
その中で近隣どうしのコミュニティが形成されているとは言い難い。
住戸ごとのつながりをいかに生むかが本敷地の課題である。

3. コンセプト

～共に住まう～
様々な世帯の家族が適度な距離感を保ちながら空間を共有する。さまざまな関わり合い、交じり合いを通じて住人たちは学び、刺激を受けながら生活を楽しむ。近所以上家族未満の関係性を構築する。

4. 世帯構成

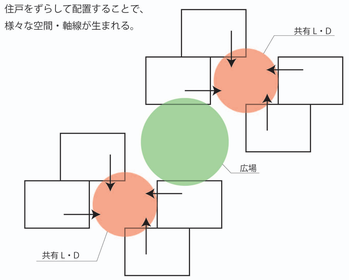
①老夫婦世帯
子供や若者が多いコミュニティの中で、様々なつながりの中老後の生活を新たに迎えたいと心機一転しているおじいちゃんとおばあちゃん

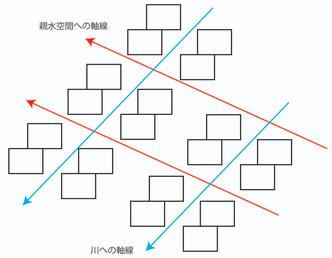
②共働き夫婦世帯
仕事で忙しい毎日だが、職場・家族以外のコミュニティも持ちたいと、様々な人たちとの交流を望む若夫婦

③夫婦＋子ども２人世帯
子どもを学校に限らず、日々様々な人と出会い、刺激を受けられる環境下で育てたい、と教育熱心な家族世帯

5. 住戸配置　～共有空間～

住戸をずらして配置することで、
様々な空間・軸線が生まれる。



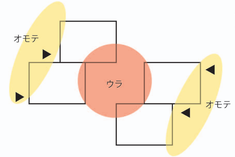


①共有リビングダイニング
4 住戸の中心に共有 SP を配置。
各住戸同士の交わりを生みだす。
半屋外の土間空間とし、
屋外からのアクセスも可能である。

②広場
共有 L・D は外部へと拡張される
延べ 8 住戸のコミュニケーションの場
となる

③軸線
川と遊歩道への視線の抜けをもうける
共有 LD を全て外部に開放し、広場とつなぐことで
アーケード空間ができる
休日に住民主体でマルシェを催すなど、
地域と繋がることができる

6. 住戸配置　～オモテとウラ～

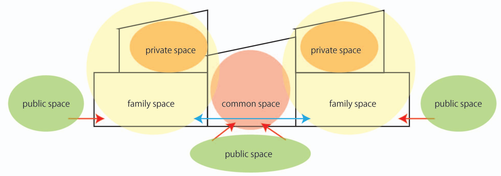


4 住戸の中心に共有 LD を配置することで、一般の集合住宅では“ウラ”として扱われる空間が賑やかな空間へと変貌する

8. 面積表

・敷地面積	2229 ㎡
・建築面積	996 ㎡
・１階床面積	787 ㎡
・２階床面積	680 ㎡
・延べ床面積	1467 ㎡
・建蔽率・容積率	44%・65%

7. 公・共・家・私の関係性



共有空間と家族空間が隣接し、スムーズな動線を描いている。共有空間は外部からもアクセス可能であり、
まちに開かれた計画である。プライベート空間は住戸の２階に配置し、最低限のプライバシーが確保されている。